

令和6年度春季(4月)入学

大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)

学生募集要項

(第2次募集)

国立大学法人

滋賀医科大学

目 次

アドミッション・ポリシー等	1
-------------------------	---

学生募集要項

募集人員	3
出願資格	
出願手続	4
選抜方法等	6
合格者発表	7
入学手続等	
出願資格審査	8
個人情報の取扱い	9
学内の略図	10

入学案内

目的	11
構成	
授業科目及び単位数表	12
教員の主な研究内容等	
履修方法	
教育方法の特例	13
学位授与	
別表1 授業科目及び単位数表	14
別表2 教員の主な研究内容等	18

アドミッション・ポリシー等

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

○求める学生像

本学の理念に基づき、優れた医学研究者や医療人となるのに必要な学識・能力・技能を修得する素養を持ち、高度な医学研究能力の修得に真摯に、また熱意を持って取り組む、次のような人材を求めている。

1. 医学・医療・生命科学や、医学と他分野との融合領域において、科学の探究を通して医学・医療の進歩・発展に寄与し、社会に貢献したいという意欲を持つ者
2. 国際的視野を持ち、世界的に活躍しようという意欲ある者
3. 生命に対する尊厳の気持ちを有し、確固たる倫理観を有する者
4. 産官学の広い分野で、疾病克服のためのリーダーとして活躍しようという意欲のある者

○入学選抜の基本方針

- ・先端医学研究者コース・高度医療人コース・学際的医療人コース
 1. 医学・医療・生命科学や、医学と他分野との融合領域に分けて、その基礎知識と思考能力を問う「医学・生命科学一般」の試験を実施する。
 2. 国際的視野と表現力を問う「外国語（英語）」の試験を実施する。
 3. 研究意欲、協調性、倫理観等を確認する面接試験を実施する。
- ・NCD疫学リーダーコース
 1. 非感染性疾病患（NCD）克服のための基礎知識を問う「小論文」の試験を実施する。
 2. 国際的視野と表現力を問う「外国語（英語）」の試験を実施する。
 3. 研究意欲、協調性、倫理観、語学力等を確認する英語による面接試験を実施する。
 4. NCD克服に関する意欲、経験、語学力を確認する提出書類により評価する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）では、ディプロマ・ポリシーに定める高度な知識・技術・能力を修得するため、次のとおり教育課程を編成します。

1. 教育課程の編成の方針

共通科目（またはコア領域）では、医学研究者として必要な専門的知識と研究技術を修得するとともに、医学倫理、生命倫理、研究倫理についての十分な知識と倫理観を修得する。

選択科目では、各専門領域における研究分野の講義、演習、実習により、最先端の知識と研究技術を修得し、自立して研究を遂行できる能力を養成する。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

(1) 1専攻4コースとすることで、すべての大学院担当教員による横断的で有機的な教育・研究指導体制とする。また、複数指導教員制とする。

(2) 先端医学研究者コース・高度医療人コース及び学際的医療人コースには、共通科目と選択科目をおく。

共通科目としては以下の授業科目を学修する。

- ① 医学総合特論及びテクニカルセミナーでは、医学研究者として必要な専門的知識と研究技術を修得する。

② 医学生命倫理学概論では、医学倫理、生命倫理、研究倫理についての十分な知識と倫理観を修得する。

③ 疫学・医療統計学概論では、医学研究にとって必要な疫学・統計学の知識を修得する。

④ 基礎と臨床の融合セミナーでは、基礎と臨床の枠を越えた知識と考え方を学ぶ。

選択科目では、各専門領域の最先端の知識と研究技術を学修し、自立して研究を遂行できる能力を修得する。

(3) 各コース毎に下記の特色あるコース科目を設ける。

① 先端医学研究者コースでは、先端的で特色ある研究に触れる機会を設けるとともに、研究倫理の基礎や最先端の研究技法を修得し、自立して研究を遂行できる能力を修得する。

② 高度医療人コースでは、臨床研究に重点を置き、医療倫理学や法制学を学び、医療現場でリーダーとして活躍できる能力を育成する。さらに専門医としてふさわしい医療技術を修得させ、専門医の資格取得を支援する。

③ 学際的医療人コースでは、医学に加え工学や理学等、学際的な知識と研究方法を教授し、産学連携の場で活躍できる能力を修得する。

④ NCD疫学リーダーコースでは、非感染性疾患（NCD）の疫学・臨床疫学・公衆衛生を修得させ、NCD克服のために産官学の分野において国際的に活躍するリーダーを養成する。科目は、コア領域、支援領域及び実習に分類される。実習には、学外でのインターンシップも含まれる。

3. 学修成果の評価の方針

学修の成果は、シラバスに記載された学修目標について、試験及びレポート等、多面的な評価方法により到達状況を客観的に評価する。

研究の進捗状況については、第3学年にポスター発表による研究基礎力試験（QE）を行い評価し、研究指導計画書の点検を行う。

学位論文の審査は、厳格性と透明性を確保するために公開で行い、知識、能力、発展性等について評価する。

ディプロマ・ポリシー（課程の修了の認定に関する方針）

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）においては、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、必要な単位を修得のうえ、審査及び試験に合格し、次のとおり優れた知識と能力を身につけた学生に学位（医学専攻：博士（医学））を授与します。

1. 医学研究者として必要な専門的知識と研究技術を身につけている。
2. 医学倫理、生命倫理、研究倫理についての十分な知識と倫理観を身につけている。
3. 自立して研究を推進し、世界に向けて研究成果を発信することができる。
4. 医学研究や医療の推進を通じて社会に貢献することができる。
5. これに加え、コース毎に下記の能力を有することを修了の要件とする。

(1) 先端医学研究者コースでは、最先端の専門的知識を持ち、産官学におけるリーダーとして国際的に活躍できる。

(2) 高度医療人コースでは、専門医としてふさわしい知識と医療技術を持ち、医療現場でリーダーとして活躍できる。

(3) 学際的医療人コースでは、医学と他分野を融合する学際的知識と研究能力を備えている。

(4) NCD疫学リーダーコースでは、疫学・臨床疫学の研究能力と産官学の分野でリーダーとなる現場力を持ち、英語に習熟し国際人として活躍できる。

学生募集要項

募集人員

医学専攻 10名

(社会人入学による者を含む)

- ・先端医学研究者コース
- ・高度医療人コース
(※「がん専門医療人養成コース」及び「Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース (地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース)」を含む)
- ・学際的医療人コース
- ・NCD疫学リーダーコース

※ 「がん専門医養成コース」及び「Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース (地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース)」の詳細については、別添の学生募集を参照してください。

(備考) 在職のままです進学を希望する社会人に対して、大学院設置基準第14条による『教育方法の特例』を適用し、「夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法による」教育を取り入れています。

出願資格

1. 大学の医学部医学科、歯学部又は修業年限6年の薬学、獣医学を履修する課程を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者
2. 外国において、学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
3. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
4. 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
5. 修士課程を修了した者又は修士の学位を有する者と同等以上の学力がある者で、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者等昭和30年4月8日文部省告示第39号及び平成元年9月1日文部省告示第118号により文部科学大臣の指定した者
6. 修業年限が6年の大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学し、当該大学を卒業していない者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと本学大学院が認めた者
7. 外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学

校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと本学大学院が認めた者

8. 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学又は修業年限6年の薬学、獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和6年3月31日において24歳に達している者

- (注) 1. 社会人入学を希望できる者は、上記のいずれかに該当する者で、出願時に既に就業しており入学後も引き続き職業を有し、所属長から在職のまま就学することの承諾が得られる者とします。
2. 出願資格5から8のいずれかの出願資格により出願する者は、8ページ「出願資格審査」を参照してください。

出願手続

1. 出願期間

令和6年2月5日（月）～2月9日（金） 消印有効

2. 出願書類の提出先及び照会先

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学 入試課入学試験係 電話 077-548-2071（直通）

3. 出願書類等（※は本学所定の用紙）

書 類 等	備 考
1 入学志願票 ※	志願票の「記入上の注意」を参照のうえ、記入してください。
2 成績証明書	出身大学（学部）長が日本語または英語で作成し、厳封したもの。本学卒業（見込）者は不要です。なお、大学院修士課程修了（見込）者は、出身大学院（研究科）の長が作成し厳封した成績証明書も併せて提出してください。
3 卒業証明書又は卒業見込証明書	出身大学（学部）長が日本語または英語で作成したもの。本学卒業（見込）者は不要です。 なお、大学院修士課程修了（見込）者は、出身大学院（研究科）の長が作成した修了（見込）証明書のみを提出してください。
4 検定料納付確認書（巻末に綴込み） ※	入学検定料 30,000 円を、検定料振込用紙（本学所定の用紙・巻末に綴込み）を使用し、令和6年1月22日（月）から2月9日（金）の期間に銀行で振込んだ後、収納印を受けた「振込金受領証明書」を貼付してください。
5 受験票・写真票 ※	写真（3か月以内に撮影した正面上半身、無帽、縦4cm×横3cmのもの）を写真欄に貼付してください。
6 受験票送付用封筒 ※	宛先を記入し、344円分の切手を貼付してください。
7 あて名票 ※	合格通知を受ける宛先を記入してください。台紙は、はがさないでください。
8 所属長の受験許可書	現に大学院に在学中の者（令和6年3月までに修了見込の者は除く。）及び官公署、医療機関、会社等に在職中の者のみ。（本学に在職中の者は不要です。）（別添様式例参照）

書 類 等			備 考	
9	英語小論文	※	NCD疫学リーダーコースを選択した者のみ該当	Form A
10	英語能力評価表	※	NCD疫学リーダーコースを選択した者のみ該当	Form B
11	推薦書	※	NCD疫学リーダーコースを選択した者のみ該当 出身大学の教員又は研究所、医療機関等の指導者が作成し、厳封したもの。	Form C

(注) 1. NCD疫学リーダーコースを選択した者は、出願書類の9～11 (Form A～C) を本学インターネットホームページ <https://www.shiga-med.ac.jp/admission/graduate/requirements> からダウンロードし、使用してください。1～8の書類については、全コース共通です。

2. 出願後における記載事項の変更は認めません。また、受理した出願書類は、理由のいかんにかかわらず返還できません。

3. 出願資格審査を受ける場合、上記の出願書類等のうち当該審査のための申請書類と重複するものについては、合わせて1通(部)の提出で構いません。

4. 出願書類に虚偽の申告をした者については、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。

4. 出願方法

(1) 郵送の場合

出願書類等を取りまとめ、**本要項添付の所定封筒により『書留・速達郵便』で送付**してください。

(2) 持参の場合

4ページの「出願手続2の提出先」に持参してください。

受付時間は、午前9時から午後5時までです。

5. 指導教員との出願前の相談 (必須)

志望するコースなどの決定のため、指導を希望する教員(18～26ページ参照)と出願前(出願資格審査を受ける者は申請前)に必ず相談をしてください。

その場合、本学の代表電話(電話077-548-2111)を経由するか、あるいは直接、教員と連絡をとってください。

6. 留意事項

(1) 受験票は、令和6年2月28日(水)までに、志願者宛に発送します。3月1日(金)までに到着しない場合は、4ページの「出願手続2の照会先」まで至急連絡してください。

(2) 障害を有する等、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある場合は、出願に先立ち4ページの「出願手続2の照会先」まで申し出てください。

(3) 入学検定料返還該当者への返還手続きについて

入学検定料返還の該当者は以下のとおりです。以下に該当しない者は理由の如何を問わず返還は行いません。該当する者は、4ページの「出願手続2の照会先」へ令和6年3月15日(金)までに申し出てください。

① 検定料を払い込んだが出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)者

② 検定料を誤って二重に払い込んだ者

選 抜 方 法 等

1. 選抜方法

学力検査、面接及び出願書類を総合して選抜します。

なお、社会人入学希望者に対して別途社会人特別選抜は行いません。本試験にて選抜します。

2. 学力検査等の日時・項目等

月 日	時 間	コース名、学力検査等及び配点			
		先端医学研究者 高度医療人 学際的医療人		NCD疫学リーダー	
3月5日(火)	10:00～11:30	外国語 (英語)	120点	外国語 (英語)	50点
	12:30～13:30	医学・生命 科学一般	120点	小論文	50点
	14:00～	面接 (個人)	*1	面接 (個人)	*2 *3

*1：先端医学研究者コース・高度医療人コース及び学際的医療人コースを選択した者の面接は、医学に関わる教育者及び研究者となるにふさわしい資質や適性について段階評価を行い、総合判定に加味します。

*2：NCD疫学リーダーコースを選択した者の面接は、英語で実施し、本コースの学生になるにふさわしい資質や適性等について評価します。

*3：NCD疫学リーダーコースを選択した者の面接と出願書類（英語小論文、英語能力、推薦書）の配点は、合計で140点となります。

(備考) 1. 学力検査に使用できるのは、黒鉛筆（シャープペンシル可）、鉛筆削り（電動式を除く）、消しゴム、メガネ、時計（計時機能のみ）、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（中身だけ取り出したもの）に限ります。

2. 「外国語（英語）」には、辞書（電子辞書類を除く）の持ち込みを許可します。ただし、医学辞書等は不可とします。

3. 「医学・生命科学一般」の出題範囲等については、別添資料を必ず参照してください。

4. 先端医学研究者コース・高度医療人コース及び学際的医療人コースを選択した者で、出願資格6に該当し、認定された志願者は「医学・生命科学一般」に代えて「小論文」とします。

3. 場所

滋賀医科大学（10ページの「学内の略図」を参照してください。）

詳細については、受験票送付時に通知します。

合格者発表

令和6年3月14日（木） 午前10時（予定）

本学インターネットホームページ（<https://www.shiga-med.ac.jp/admission/graduate/result>）
において合格者の受験番号を発表します。

なお、合否についての電話による問い合わせには一切お答えできません。

入学手続等

1. 日 時

・持参の場合

令和6年3月22日（金） 午前9時から午後5時まで

・郵送の場合

令和6年3月22日（金） 午後5時（必着）

郵送の場合は、令和6年3月21日（木）午後5時までに下記2へ連絡してください。

2. 手続場所（郵送先）

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学 入試課入学試験係 電話 077-548-2071（直通）

3. 納付金等

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 未定（参考：令和5年度 267,900円（前期分）[年額 535,800円]）

① 未定としている授業料の額及び納付の詳細については、合格者に別途通知します。

② 前期分の授業料は、口座振替又は本学所定の振込依頼書により令和6年5月中に納付していただくこととなります。

③ 授業料については、年額を納付することができます。

④ 授業料が在学中に改定された場合は、改定時から新しい授業料を適用します。

4. 納付金の減免等

入学料及び授業料には減免及び徴収猶予の制度があり、これに関する手続等については、合格者に別途通知します。

ただし、減免は予算の都合により、実施されない場合がありますので、学資金の計画を十分にご検討ください。

5. 提出書類等

入学手続に必要な書類やその他詳細については、合格通知書を送付する際にお知らせします。

6. 留意事項

(1) 入学手続には、受験票が必要ですので、紛失しないように注意してください。

(2) 上記の期限までに入学手続を完了しない場合は、入学辞退者として取り扱います。

出願資格審査

出願資格5から8のいずれかにより出願しようとする場合は、次により出願資格の認定を受けてください。

1. 申請書類

- (1) 出願資格5の場合は、下記の①から④
- (2) 出願資格6、7の場合は、下記の①から⑥
- (3) 出願資格8の場合は、下記の①から④及び⑦
 - ① 出願資格認定審査申請書（本学所定の用紙）
 - ② これからの研究課題及び研究計画（A4判用紙により1,200字程度）
 - ③ 成績証明書（出身大学(学部)長が日本語または英語で作成し、厳封したもの。なお、大学院修士課程修了(見込)者は、出身大学院(研究科)の長が作成し厳封した成績証明書も併せて提出してください。）
 - ④ 審査結果通知用封筒：長形3号封筒に住所・氏名を記載し、344円分の切手を貼付したもの
 - ⑤ 推薦書（出身大学(学部)長等が作成したもの。ただし、NCD疫学リーダーコースを選択した者については、本学所定の用紙Form Cにより作成してください。）
 - ⑥ 在学大学の教育課程表（写）及び授業計画書〔シラバス〕（写）
 - ⑦ 推薦書（研究所・医療機関等の指導者が作成したもの。ただし、NCD疫学リーダーコースを選択した者については、本学所定の用紙Form Cにより作成してください。）

2. 申請期間

令和6年1月9日（火）～15日（月） 午後5時（必着）

3. 申請書類の提出先

4ページの「出願手続2の提出先」と同じです。

なお、郵送する場合は『簡易書留郵便』とし、その封筒の表に「大学院博士課程出願資格認定審査申請書在中」と朱書きしてください。持参する場合の受付時間は、午前9時から午後5時までです。

4. 資格審査

資格審査は、提出された申請書類により行います。ただし、必要に応じ面接を行うことがあり、この場合は、改めて申請者に通知します。

5. 審査結果

審査結果の通知は、令和6年1月25日（木）までに、申請者宛に発送します。

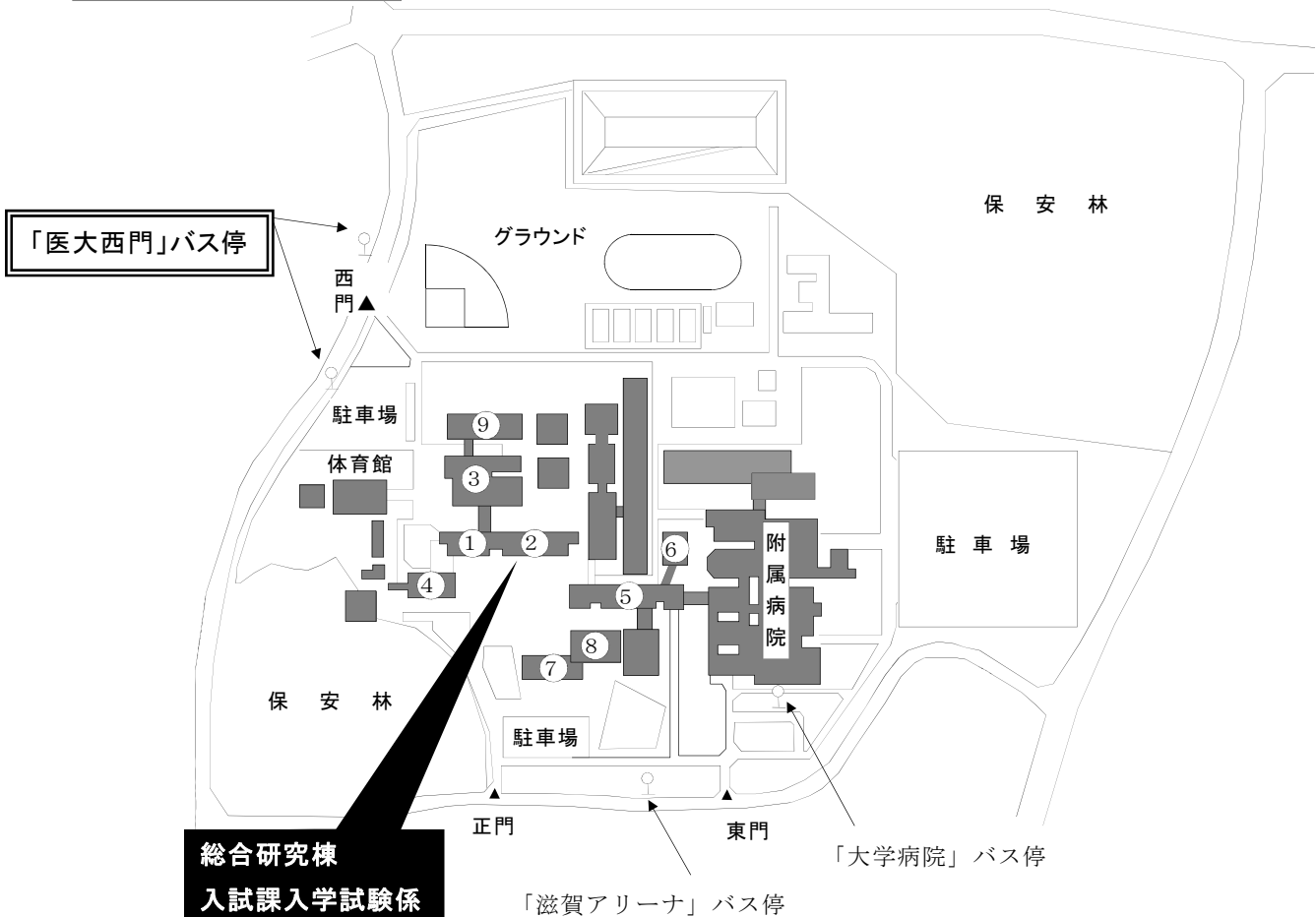
出願資格「有」と認められた場合は、本要項に定める出願手続（4ページ参照）を行ってください。

個人情報 の 取 扱 い

本学が入学選抜を通じて取得した個人情報については、次のとおり取り扱いますので、予めご了承ください。

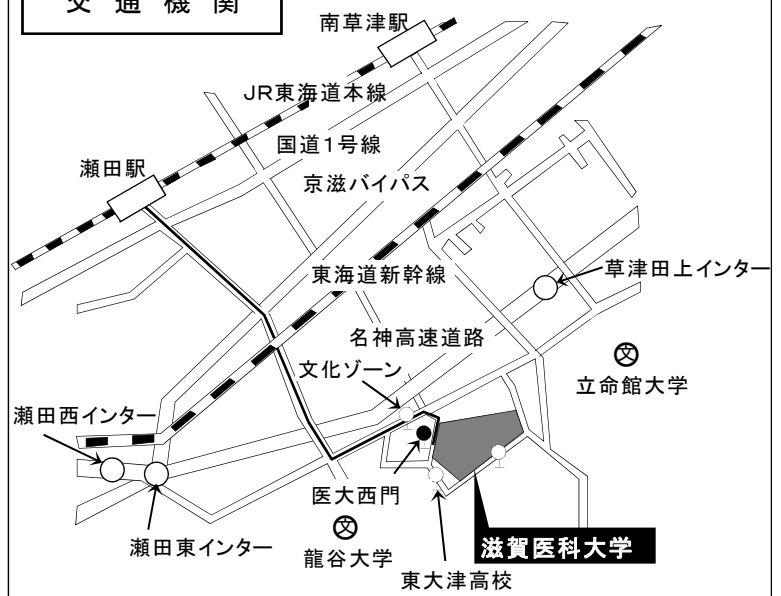
1. 個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人滋賀医科大学個人情報保護規程」に基づいて取り扱います。
2. 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、①入学選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
3. 入学選抜に用いた試験成績は、今後の入学選抜方法の検討資料作成のために利用します。
4. 出願書類等に記載された個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

学内の略図



- ① 一般教養棟
- ② 総合研究棟
- ③ 基礎講義・実習棟
- ④ 福利棟
- ⑤ 臨床研究棟
- ⑥ 臨床講義棟
- ⑦ 管理棟・保健管理センター
- ⑧ 図書館・マルチメディアセンター
- ⑨ 看護学科棟

交通機関



●JR東海道本線(琵琶湖線)瀬田駅前から「大学病院」行き
路線バス「医大西門」下車(所要時間約15分)

入学案内

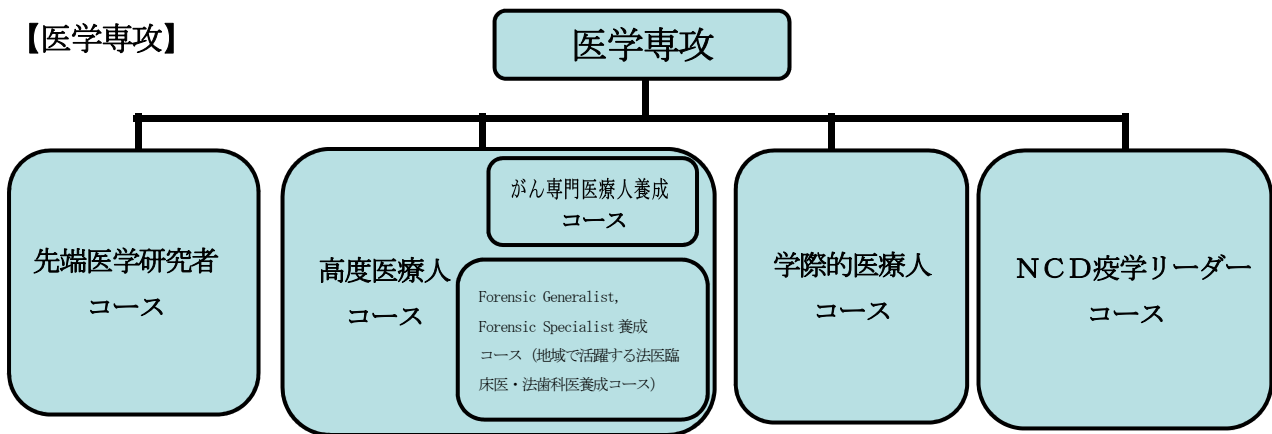
目的

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）は、医学の領域において、自立して創造的研究活動を行うのに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識及び人間性を備えた優れた研究者及び医療人を育成し、併せて医学の進歩と社会福祉の向上に寄与することができる人材の育成を目的とします。

構成

- ・ 1専攻、4コースにより編成されています。
- ・ 高度医療人コースに「がん専門医療人養成コース」及び「Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース（地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース）」を設置しています。

【医学専攻】



本専攻では、①豊かな学識と医学全般に渡る幅広い知識を基盤とし、先端的で特色ある研究を遂行できる、医学研究者及び高度医療人 ②医学と工学、医学とバイオテクノロジーのような学際的知識と研究能力を兼ね備えた人材 ③豊かな学識と人間性および高い倫理観を備えた優れた医師および医学研究者の育成を目的として、4つのコースを設けています。

【先端医学研究者コース】

- ： 基礎医学から臨床医学まで医学の領域に関する医学研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。
- ① 医学研究者として自立して創造的研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基盤となる豊かな学識と倫理観および人間性を備えた優れた研究者
- ② 旺盛なる探求心と創造性を有し、基礎医学から臨床医学まで医学領域の諸問題の解決に挑戦する意欲的な人材の育成
- ③ 国際的に活躍できる最先端の知識と研究能力を有する医師/医学研究者の育成

【高度医療人コース】

- ： 専門医取得を目指しながら、主として臨床研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。
- ① 優れた研究能力に加えて高度な臨床技術を兼ね備え、高い倫理観と人間性を有する高度医療人
- ② 臨床の現場での課題を研究に生かすとともに、研究の成果を臨床医学に生かして、新しい診断法や治療法の

開発につなげる医学研究の展開を目指す

- ③ 臨床研究に重点を置くとともに、医療倫理や法制論を学び、医療現場でリーダーとして活躍できる人材を育成

【学際的医療人コース】

： 医学と他分野との融合による新しい学問分野の創成や医療イノベーションに関する研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。医学部以外の出身者に配慮した授業科目を設置しています。

- ① 医学、工学、バイオテクノロジーなど、従来の学問領域の枠を越えた学際的な知識と高い研究技術を有するとともに医療人として高い倫理観と人間性を兼ね備えた研究者
- ② 学際的な知識と研究能力によって医学・医療の領域のイノベーションを担う人材
- ③ 基礎医学と臨床医学に関する幅広い知識に加え、学際的な視野と研究能力を有し、大学・企業等の研究所で活躍できる研究者

【NCD疫学リーダーコース】

： 非感染性疾患 (Non-Communicable Diseases、NCD) に関する研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。

- ① 非感染性疾患 (NCD) に関する医学的知識、疫学方法論、生物統計学の高度な技術、世界の公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備えたリーダーの育成
- ② 英語コミュニケーションに熟達し、論理的議論ができるグローバルリーダーの育成
- ③ 大規模疫学研究、国際共同研究を体験し、一流の研究能力をもつアカデミックリーダーの育成
- ④ 健康関連産業や保健医療行政機関で活躍する現場力をもつリーダーの育成

授業科目及び単位数表

別表1のとおり。

ただし、「がん専門医療人養成コース」については別添の「がん専門医療人養成コース 学生募集」、「Forensic Generalist, Forensic Specialist養成コース（地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース）」については、別添の「Forensic Generalist, Forensic Specialist養成コース（地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース） 学生募集」のとおりとします。

教員の主な研究内容等

別表2のとおり。

履修方法

【先端医学研究者コース・高度医療人コース・学際的医療人コース】

1. 第1～3学年において、「基盤教育群」（コース共通科目）の必修科目から14単位、「コース科目」の必修科目（先端医学研究者コース、高度医療人コース及び学際的医療人コース）から4単位、「実習科目」から12単位以上を修得し、合計30単位以上を履修するものとします。
2. 第3・4学年においては、指導教員の下で、研究課題に即した研究指導を受けるとともに、自発的な研究活動に専念し、研究者として自立して独創的な研究活動を行うために必要な高度の研究能力とその基礎と

なる豊かな学識を養います。

3. 「がん専門医療人養成コース」については別添の「がん専門医療人養成コース 学生募集」、「Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース（地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース）」については、別添の「Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース（地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース） 学生募集」のとおりとします。

【NCD疫学リーダーコース】

1. 第1～4学年において、コア領域の必修科目から18単位、支援領域の選択科目から2単位、実習の必修科目から8単位、選択科目から2単位以上を修得し、合計30単位以上を履修するものとします。なお、カリキュラムは変更する場合があります。
2. 第2学年から、指導教員の指示の下、研究課題に即した研究指導を受けるとともに、自発的な研究活動に専念し、研究者として自立して独創的な研究活動を行うために必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養います。

教育方法の特例

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）においては、大学院設置基準第14条「教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく修学し、教育・研究指導を受けることが可能になるよう、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行うよう配慮しています。

学位授与

1. 修業年限は4年を標準とします。
2. 学位の種類は、博士（医学）とします。
3. 学位は、大学院に4年以上在学し、前述の履修方法により30単位以上を修得、かつ、研究基礎力試験（Qualifying Examination、QE）に合格し、博士論文作成に必要な研究指導を受けたうえ、論文審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし、3年以上在学し、極めて優れた研究業績を上げ、所定の要件を満たした場合には在学期間が4年未満であっても学位を授与することがあります。

別表 1

医学専攻 先端医学研究者コース、高度医療人コース、学際的医療人コース
授業科目及び単位数表

科目区分	授業科目名	授業を行う年次	単位数			選択・必修
			講義	演習	実習	
共通	基盤教育群	医学総合特論Ⅰ	1～2	3		必修
		医学総合特論Ⅱ	1～2	3		
		テクニカルセミナー	1～2		2	
		医学・生命倫理学概論	1～2	1		
		疫学・医療統計学概論	1～2	1		
		基礎と臨床の融合セミナーⅠ	1～2	2		
		基礎と臨床の融合セミナーⅡ	1～2	2		
コース科目	先端医学研究者コース	パイオニアセミナー	1～2		2	必修
		先端医学研究技法	1～2		2	
	高度医療人コース	臨床医学研究総論	1～2	2		必修
		疫学・医療統計学	1～2		1	
		医療倫理学法制総論	1～2	1		
	学際的医療人コース	バイオ医療学	1～2	1		必修
		ゲノムサイエンス	1～2	1		
		バイオインフラマティクス	1～2	1		
		感染症学総論	1～2	1		
	実習科目	共通	細胞生理学実習A	1～3		2
細胞生理学実習B			1～3		2	
解剖生理学実習A			1～3		2	
解剖生理学実習B			1～3		2	
幹細胞学実習A			1～3		2	
幹細胞学実習B			1～3		2	
遺伝子情報学実習A			1～3		2	
遺伝子情報学実習B			1～3		2	
分子細胞生物学実習A			1～3		2	
分子細胞生物学実習B			1～3		2	
分子神経形態学実習A			1～3		2	
分子神経形態学実習B			1～3		2	
病理診断学実習A			1～3		2	
病理診断学実習B			1～3		2	
病理学・免疫学実習A			1～3		2	
病理学・免疫学実習B			1～3		2	
分子薬理学実習A			1～3		2	
分子薬理学実習B			1～3		2	
産業医学実習A			1～3		2	
産業医学実習B			1～3		2	
法医学実習A			1～3		2	
法医学実習B			1～3		2	
循環器学実習A			1～3		2	
循環器学実習B			1～3		2	
呼吸器内科学実習A			1～3		2	
呼吸器内科学実習B			1～3		2	
消化器内科学実習A			1～3		2	
消化器内科学実習B			1～3		2	

別表 1

科目 区分	授業科目名	授業を 行う 年次	単位数			選択・必修
			講義	演習	実習	
実習科目	共通	血液内科学実習 A	1～3		2	選 択
		血液内科学実習 B	1～3		2	
		内分泌代謝・腎臓内科学実習 A	1～3		2	
		内分泌代謝・腎臓内科学実習 B	1～3		2	
		脳神経内科学実習 A	1～3		2	
		脳神経内科学実習 B	1～3		2	
		小児科学実習 A	1～3		2	
		小児科学実習 B	1～3		2	
		精神医学実習 A	1～3		2	
		精神医学実習 B	1～3		2	
		皮膚科学実習 A	1～3		2	
		皮膚科学実習 B	1～3		2	
		消化器・乳腺・小児・一般外科学実習 A	1～3		2	
		消化器・乳腺・小児・一般外科学実習 B	1～3		2	
		心臓血管外科学実習 A	1～3		2	
		心臓血管外科学実習 B	1～3		2	
		呼吸器外科学実習 A	1～3		2	
		呼吸器外科学実習 B	1～3		2	
		整形外科学実習 A	1～3		2	
		整形外科学実習 B	1～3		2	
		脳神経外科学実習 A	1～3		2	
		脳神経外科学実習 B	1～3		2	
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習 A	1～3		2	
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習 B	1～3		2	
		産科学・婦人科学実習 A	1～3		2	
		産科学・婦人科学実習 B	1～3		2	
		泌尿器科学実習 A	1～3		2	
		泌尿器科学実習 B	1～3		2	
		眼科学実習 A	1～3		2	
		眼科学実習 B	1～3		2	
		麻酔学実習 A	1～3		2	
		麻酔学実習 B	1～3		2	
		放射線医学実習 A	1～3		2	
		放射線医学実習 B	1～3		2	
		歯科口腔外科学実習 A	1～3		2	
		歯科口腔外科学実習 B	1～3		2	
		臨床検査医学実習 A	1～3		2	
		臨床検査医学実習 B	1～3		2	
		救急集中治療医学実習 A	1～3		2	
		救急集中治療医学実習 B	1～3		2	
		腫瘍医学実習 A	1～3		2	
腫瘍医学実習 B	1～3		2			
プライマリ・ケア医学実習 A	1～3		2			
プライマリ・ケア医学実習 B	1～3		2			
形成再建外科学実習 A	1～3		2			
形成再建外科学実習 B	1～3		2			

別表 1

科目 区分	授業科目名	授業を 行う 年次	単位数			選択・必修	
			講義	演習	実習		
実習科目	共通	臨床腫瘍薬理学実習 A	1～3			2	選 択
		臨床腫瘍薬理学実習 B	1～3			2	
		神経病態学実習 A	1～3			2	
		神経病態学実習 B	1～3			2	
		神経薬理学実習 A	1～3			2	
		神経薬理学実習 B	1～3			2	
		神経科学研究実習 A	1～3			2	
		神経科学研究実習 B	1～3			2	
		実験動物学実習 A	1～3			2	
		実験動物学実習 B	1～3			2	
		疫学研究実習 A	1～3			2	
		疫学研究実習 B	1～3			2	
		生命情報学実習 A	1～3			2	
		生命情報学実習 B	1～3			2	
		再生医療学実習 A	1～3			2	
		再生医療学実習 B	1～3			2	

履修方法

※ 1年次、2年次、3年次において、全コース共通必修科目から14単位、コース科目の必修科目から4単位、実習科目から12単位以上、計30単位以上を履修するものとする。

別表 1

医学専攻 NCD疫学リーダーコース
授業科目及び単位数表

領域	クラス スタ	授 業 科 目 名	授 業 を 行 う 年 次	単 位 数			選 択 ・ 必 修
				講義	演習	実習	
コ ア 領 域	ク ラ ス タ 公 衆 衛 生	公衆衛生学概論	1	2			必 修
		保健医療行政論	2	2			
	ク ラ ス タ 医 学 統 計	疫学研究概論	1	2			必 修
		臨床試験概論	1	2			
		生物統計学概論	1	2			
	ク ラ ス タ N C D 疫 学	NCD疫学総論	1	2			必 修
		社会疫学総論	2	2			必 修
	ク ラ ス タ 国 際 交 流	アジア文化・倫理の理解	1		2		必 修
		発表技法と熟議	2		2		
	支 援 領 域	ク ラ ス タ N C D 臨 床	NCD臨床総論	1	2		
ク ラ ス タ 多 分 野 横 断		基礎医学から地域医療への展開	2	2			
		産業医学	1		2		
実 習		研究計画の鍛錬	2			4	必 修
		学外研究機関短期研修	2			2	選 択
		健康関連産業研修	2			2	
		アジア・フィールドワーク	3			2	
		学外武者修行	3			4	必 修

履修方法

※ 1年次、2年次、3年次、4年次において、コア領域の必修科目から18単位、支援領域の選択科目から2単位、実習の必修科目から8単位、選択科目から2単位以上を修得し、合計30単位以上を履修するものとする。

別表 2

教員の主な研究内容等

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
生命科学講座	物理学	教授	目 良 裕	1. ナノ物質、ナノ構造、表面の研究 2. ナノ光吸収分光法の開発 3. 上記テーマの医学応用
		准教授	成 瀬 延 康	1. ナノ物質や表面、バイオマテリアルの光物性研究 2. 回折法、顕微鏡法、分光法を駆使した材料物性研究 3. 地球環境科学、農業、防災、医療に資する物理研究 4. 科学教育に関する研究
	化学	教授	古 莊 義 雄	1. 超分子化学を基盤とする医用材料の開発 2. 新規な遺伝子ベクターおよびDDSの開発 3. 合成化学的手法に基づく核酸医薬の開発
	生物学	教授	平 田 多 佳 子	1. 免疫細胞の生体内移動の分子機構の解析 2. リンパ球の皮膚・粘膜浸潤機構の解析とその制御法の開発 3. 細胞骨格関連タンパク質による免疫応答制御機構の解明
		准教授	里 岡 大 樹	1. 免疫代謝とレドックスシグナルによる自己免疫疾患制御の解明 2. CD8陽性制御性T細胞の分化機構の解明とその自己免疫疾患治療への応用 3. 非リンパ臓器特異的免疫反応機序の解明
数学	准教授	川 北 素 子	1. 多数の有理点を持つ代数曲線の研究	
医療文化学講座	哲学・倫理学	教授	大 北 全 俊	1. 生命倫理（臨床倫理、研究倫理、公衆衛生倫理）の研究 2. ケア・責任概念の研究 3. HIV感染症をはじめとする感染症の倫理的課題に関する研究
	心理学	准教授	小 島 隆 次	1. 空間認知と言語理解 2. 感性情報処理 3. 非言語情報認知
	英語	教授	加 藤 穰	1. 生命倫理に関する国際比較研究 2. 医学・看護英語教育に関する研究
	文化人類学	教授	兼 重 努	1. 中国少数民族の人類学的研究 2. 風水思想の人類学的研究 3. 功德の観念と積徳行に関する人類学的研究
解剖学講座	生体機能形態学	教授	宇田川 潤	1. 行動における脳内リン脂質の機能の解析 2. 胎生期環境が関わる非アルコール性脂肪性肝疾患の発症機構の解析 3. 手の構造と把握機能の研究
		特任准教授	内 村 康 寛	1. DOHaD(Developmental Origins of Health and Disease)仮説の分子基盤の解明 2. サルコペニアの発症に関与する遺伝子の機能解明
	神経形態学	教授	勝 山 裕	1. 脳形態形成機構の解析 2. 幹細胞の維持と細胞分化機構の解析 3. 精神疾患モデル動物の解析
		准教授	金 田 勇 人	1. 老化にともなう幹細胞および組織の恒常性破綻機構の解析 2. 老年性疾患のバイオマーカーの探索 3. 脳形態形成機構の解析
生理学講座	統合臓器生理学	教授	等 誠 司	1. 神経幹細胞の発生・維持・分化のメカニズム解析 2. 中枢神経系の再生戦略開発 3. 精神疾患の病態解明
	生体システム生理学	教授	小 川 正 晃	1. 意欲、意思決定、注意を担う神経回路メカニズムの解明 2. 意欲、意思決定、注意に関わる神経活動の計算アルゴリズムの解明 3. 意欲、意思決定、注意が障害される精神疾患の病態理解・診断・治療に資するトランスレーショナル研究
生化学・分子生物学講座	分子生理化学	教授	縣 保 年	1. エピジェネティックな遺伝子発現とがん化の制御機構 2. 染色体高次構造変化による遺伝子発現とがん化の制御機構 3. iPS細胞を用いたがん特異的T細胞の再生
		准教授	寺 田 晃 士	1. 免疫細胞の抗原受容体遺伝子再構成の分子制御機構 2. 免疫細胞の発生を制御する遺伝子の発現調節機構

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。
主任指導を希望する場合は、充分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
生化学・ 分子生物学講座	分子病態生化学	教授	扇田 久和	1. がん、循環器疾患におけるシグナル伝達機構と遺伝子解析 2. 細胞接着の分子機構
		准教授	佐藤 朗	1. がん、炎症性疾患における異細胞間コミュニケーションとシグナル伝達機構 2. 霊長類循環器疾患モデルの作製とその病態解析
病理学講座	人体病理学	教授	■九嶋 亮治	1. 消化管病理学 2. 腫瘍病理診断学
		准教授	仲山 貴永	1. 非浸潤性消化管癌の進展可能性についての研究 2. 合成致死に基づく抗腫瘍治療の研究
病理学講座	疾患制御病態学	教授	伊藤 靖	1. インフルエンザウイルス及び新型コロナウイルスに対するワクチンおよび治療薬の開発 2. サルモデルを用いた遺伝子病と老化の研究 3. カニクイザルを用いた免疫反応の研究
		准教授	石垣 宏仁	1. 霊長類モデルを用いた病理学的、免疫学的研究 (特に腫瘍、移植、感染症について)
	微生物感染症学	准教授	旦部 幸博	1. がん関連遺伝子の生理機能解析 2. 新規抗腫瘍活性成分の探索
薬理学講座	-	教授	西 英一郎	1. 膜タンパク質細胞外ドメイン切断の分子機構および生物学的役割の解明 2. 転写コレギュレーターによる代謝調節機構の解明 3. 心血管病、がん、炎症性疾患におけるメタロペプチダーゼの役割の解明
		准教授	大野 美紀子	1. 多機能プロテアーゼによる心拍数制御機構 2. 急性冠症候群における新規バイオマーカーの有用性の検討 3. 巨核球成熟と血小板産生におけるプロテアーゼの役割 4. アルツハイマー病におけるプロテアーゼの役割
社会医学講座	衛生学	特任准教授	北原 照代	1. 作業関連性筋骨格系障害の予防 2. 障害者の安全衛生（二次障害予防） 3. 治療と仕事の両立支援 4. 障害者・情報弱者の社会的障壁と健康
	法医学	教授	一杉 正仁	1. 交通外傷分析 2. 血栓症突然死の病態解析 3. 外因死の予防医学
		准教授	中村 磨美	1. 法医中毒、臨床中毒、濫用薬物の生理作用 2. 法医画像、死後CT 3. 新型コロナウイルスその他感染症による医療機関外死亡
内科学講座 (内科)	循環器内科	教授	中川 義久	1. 虚血性心疾患の冠血行再建 2. 動脈硬化性疾患の一次・二次予防 3. 至適抗血栓療法
		講師	小澤 友哉	1. 臨床心臓電気生理学の研究 2. 不整脈の治療法の開発 3. 心臓電気現象のシミュレーション研究
		講師	酒井 宏	1. 心不全の病態解明 2. 肺高血圧症の診断治療に関する研究 3. 心アミロイドーシスの診断治療に関する研究
	呼吸器内科	教授	中野 恭幸	1. 肺の構造と機能に関する研究 2. 呼吸器疾患における構造と機能に関する研究
		准教授	山口 将史	1. 重症喘息の病態生理に関する研究 2. 慢性難治性咳嗽の病態生理と治療に関する研究
	消化器内科	教授	(予定教員)	
		准教授	稲富 理	1. 膵腫瘍および慢性膵炎における膵線維化に関する研究 2. ERCP関連手技における新規デバイス開発
		講師	西田 淳史	1. 腸管粘膜免疫からの炎症性腸疾患の解明 2. 腸内微生物叢からの炎症性腸疾患の病態解明 3. サイトカインからの炎症性腸疾患の病態解明

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。

主任指導を希望する場合は、十分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
内科学講座 (内科)	血液内科	教授	村田 誠	1. 造血幹細胞移植における免疫応答の機序解明 2. 難治性血液疾患の予後因子の同定 3. 新規免疫細胞療法の開発
		教授	久米 真司	1. 糖尿病性腎症の病態解明 2. 慢性腎臓病の病態解明 3. 腎病態栄養学
	脳神経内科	教授	漆谷 真	1. 筋萎縮性側索硬化症の分子標的治療 2. 神経変性疾患の細胞生物学的解析 3. 神経疾患の非侵襲的診断 4. 脳血管障害の分子病態解析 5. 神経リハビリテーションと脳機能画像解析
		准教授	寺島 智也	1. 細胞及び臓器標的化による新規分子治療法の開発 2. 骨髄由来細胞のリプログラミングによる再生治療への応用 3. 骨髄由来細胞と神経疾患との関連性
		講師	山川 勇	1. 臨床神経学における電気診断 2. 神経リハビリテーションと脳機能画像解析
小児科学講座 (小児科)	-	教授	丸尾 良浩	1. 遺伝性黄疸の分子遺伝学的研究 2. UDP-グルクロン酸遺伝子多型と薬剤代謝に関する研究 3. 先天性甲状腺機能低下症の分子遺伝学的研究
		准教授	多賀 崇	1. 小児白血病の新規治療開発に関する臨床研究
		講師	澤井 俊宏	1. 非典型性溶血性尿毒症症候群の診断と治療に関する研究 2. C3腎症の発症機構の解明 3. 補体制御異常症に関与する因子の探索
		講師	柳 貴英	1. 早産児遷延性黄疸の遺伝学的背景 2. 早産児ビリルビン脳症の遺伝学的背景
精神医学講座 (精神科)	-	教授	尾関 祐二	1. 統合失調症の病因、病態の検討 2. 抗精神病薬治療の循環器への副作用に関する研究
		特任教授	角谷 寛	1. 睡眠障害の臨床研究 2. 睡眠とメンタルヘルスの疫学研究 3. 睡眠を解析するウェアラブルデバイスの開発と評価
		准教授	藤井 久彌子	1. 統合失調症の病因・病態の研究 2. 不随意運動を伴う精神疾患に関する研究 3. 精神疾患合併妊婦の臨床研究
		講師	吉村 篤	1. 高齢者の術後せん妄の発症予測に有用な生体指標の探索研究 2. 睡眠障害に起因する社会機能/QOL障害の実態調査 3. 電気けいれん療法 (ECT) に関する多施設共同による後方視観察研究
皮膚科学講座 (皮膚科)	-	教授	藤本 徳毅	1. 自己免疫性疾患における抑制性B細胞の研究 2. 皮膚悪性腫瘍の治療に関する研究 3. 先天性表皮水疱症の遺伝子治療 4. 自己炎症性疾患の発症機序に関する研究
		講師	高橋 聡文	1. アレルギー性皮膚疾患の診断と治療に関する研究 2. 皮膚感染症における病原体遺伝子検出に関する研究 3. 遺伝性皮膚疾患の病態と治療に関する研究
外科学講座 (外科)	消化器外科、 乳腺・小児・一般外科	教授	谷 眞至	1. 膵切除術における合併症予防に関する臨床研究 2. 消化器癌に対する免疫療法の開発 3. 膵機能に関する研究 4. 消化器癌転移メカニズムの解明 5. 手術手技に関する介入研究 6. 癌と線維芽細胞との相互作用
		講師	三宅 亨	1. 腫瘍と線維化に関する研究 2. 癌転移に関する研究 3. 大腸における周術期管理に関する研究
		講師	石川 原	1. 肝切除の安全性向上に関する研究 2. 癌免疫治療における生体反応の解析
		講師	貝田 佐知子	1. 胃癌術後の栄養状態についての研究 2. ロボット支援下胃切除の有用性と安全性の研究 3. 人工知能(AI)を用いた胃と周囲血管の自動認識の研究

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。
主任指導を希望する場合は、十分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和 5 年 1 2 月 1 日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
外科学講座 (外科)	心臓血管外科、呼吸器外科	教授	鈴木 友彰	1. 冠動脈バイパスモデルの研究 2. 心臓大血管手術の長期予後の研究 3. 僧帽弁形成の術式および長期予後の研究 4. 急性大動脈手術の研究および長期予後の研究
外科学講座 (外科)	心臓血管外科、呼吸器外科	准教授	花岡 淳	1. 胸部疾患に対する胸腔鏡下低侵襲手術 2. 肺癌に対する手術法の研究 3. 呼吸器外科手術におけるダビンチ手術 4. 肺葉間・区域間作成方法の研究 5. 動的X線装置を用いた肺排切除前後の肺機能の評価
外科学講座 (外科)	心臓血管外科、呼吸器外科	講師	大塩 恭彦	1. 肺癌に対する単孔式手術 2. 肺癌に対するナビゲーション手術 3. 胸部手術に対する 8 K 内視鏡システム 4. 肺手術時の新規気漏検出法および修復法の開発 5. 抗腫瘍免疫応答と腫瘍微小環境に関する研究
		講師	高島 範之	1. 胸部大動脈瘤の長期予後の研究 2. 急性大動脈解離に対する術式検討と長期予後の研究 3. 動脈壁の伸展性の検討と臨床への応用 4. 大動脈弁狭窄症の術式および長期予後の研究
整形外科講座 (整形外科)	-	教授	今井 晋二	1. 鏡視下肩関節手術の臨床成績向上に関する研究 2. 人工肩関節置換術の臨床成績向上に関する研究 3. 軟骨損傷と脊髄損傷に対する再生医学的研究
		准教授	森 幹士	1. 脊柱靭帯骨化症の病態と治療に関する研究 2. 脊椎・脊髄の診断と治療に関する研究 3. 骨代謝に関する研究
		講師	彌山 峰史	1. 脊柱靭帯骨化の骨化形成メカニズムの解析 2. 靭帯肥厚の病態解析
		講師	三村 朋大	1. 大腿骨寛骨白インピンジメント症候群に関する研究 2. 臼蓋形成不全に関する研究 3. 股関節の解剖とレントゲン撮影に関する研究
		特任講師	熊谷 康佑	1. 細胞膜イオンチャネルの網羅的解析による関節変性疾患診断法および抑制療法の開発 2. 関節リウマチ患者における低疾患活動性獲得の際の薬剤使用量の比較研究 3. 関節リウマチ患者における人工膝関節全置換術の術後満足度と患者立脚型評価の相関研究
脳神経外科学講座 (脳神経外科)	-	教授	吉田 和道	1. 動脈硬化の分子病態解析と非侵襲的画像診断 2. 脳動脈瘤の分子病態解析と非侵襲的画像診断 3. 脳血管障害の新規外科治療法開発 4. 脳血管障害の疫学
		准教授	深見 忠輝	1. 神経腫瘍に対する集学的治療法の研究 2. 覚醒下手術の安全性及び危険性に関する研究 3. 内視鏡下手術による治療の適応に関する研究
		講師	新田 直樹	1. 内側側頭葉てんかんの病態と治療に関する研究 2. 神経生理学的検査の解析に関する研究 3. 脳腫瘍の病態と治療に関する研究
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	-	教授	(予定教員)	
		准教授	大脇 成広	1. 音声障害に対する診断と治療 2. 頭頸部癌の診断と治療
		講師	神前 英明	1. 上皮細胞による気道アレルギー疾患誘導のメカニズムとその制御 2. 好酸球性副鼻腔炎の病態解明 3. スギ花粉症の病態解明

★印の教員は令和 7 年 3 月に、■印の教員は令和 8 年 3 月に定年を迎えます。
主任指導を希望する場合は、十分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学講座 (耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科)	—	講師	戸 嶋 一 郎	1. 上気道における好酸球炎症の研究 2. アレルギー性鼻炎の病態解明 3. 気道上皮における粘液産生とその制御
産科学婦人科学講座	女性診療科	教授	★村 上 節	1. 産婦人科低侵襲手術（子宮鏡・腹腔鏡・ロボット手術） 2. 子宮内膜症・子宮腺筋症 3. 生殖内分泌学・不妊症
		講師	天 野 創	1. 婦人科腫瘍に対するロボット支援下手術 2. オルガノイドを用いた婦人科腫瘍の治療抵抗性解明 3. 子宮内膜症の癌化機構
産科学婦人科学講座	母子診療科	准教授	辻 俊 一 郎	1. 帝王切開癒着症候群の病態解明と治療および予防法の開発 2. 周産期脳障害における病態解明と治療の開発 3. 子宮内膜症に関する研究 4. 精神疾患合併妊娠に対する臨床研究
		講師	笠 原 恭 子	1. 女性医学 2. 女性の骨粗鬆症
泌尿器科学講座 (泌尿器科)	—	教授	影 山 進	1. ロボット支援および腹腔鏡下手術に関する研究 2. 泌尿器癌に対する新規抗薬剤の創薬 3. 泌尿器癌のプロテオミクス研究
		講師	上 仁 数 義	1. 小児泌尿器科手術（形成手術、腹腔鏡手術に関する研究） 2. 小児排尿障害に関する研究 3. 小児泌尿器領域におけるMRI画像診断の応用
眼科学講座（眼科）	—	教授	(予定教員)	
		准教授	西 信 良 嗣	1. 網膜の分子生物学 2. 眼内薬物治療
		講師	澤 田 修	1. 硝子体内薬物動態の研究 2. 糖尿病黄斑浮腫に関する研究
麻酔学講座 (麻酔科、ペイン クリニック科)	—	教授	北 川 裕 利	1. 心筋虚血再灌流傷害モニタリング法の開発 2. 麻酔・麻薬による心保護作用の解明
		講師	小 嶋 亜希子	1. Ca ²⁺ 輸送タンパク質に着目した、麻酔薬の心筋保護メカニズムにおける分子基盤の解明 2. 麻酔薬による心臓ペースメーカー機能に対する修飾作用の研究 3. 麻酔薬とイオンチャネルとの相互作用における電気生理学的、分子生物学的解析 4. 不整脈発生に関わるイオン機序に対する麻酔薬の修飾作用の研究
		講師	岩 下 成 人	1. 脳機能画像法を用いた痛みの脳内メカニズムの解明 2. 慢性疼痛に対する集学的治療 3. パルス高周波法を用いた低侵襲治療の開発
		講師	中 西 美 保	1. 小動物用脳MRIを用いた慢性疼痛の脳内メカニズムの解明（基礎） 2. 漢方薬の鎮痛メカニズムの解明（基礎） 3. 慢性痛患者における病態と治療効果(集学的診療、薬物療法)の評価（臨床） 4. パルス高周波法を用いた末梢神経ブロックの至適条件と長期予後の検討（臨床）
放射線医学講座 (放射線科、放射線部)	—	教授	渡 邊 嘉 之	1. CT、MRIを用いた神経疾患の病態解明、機能情報の画像下の研究 2. 人工知能の画像診断への応用 3. MRIを用いた生体内の流れの研究
		准教授	園 田 明 永	1. 動態X線解析を用いた拘束性肺障害、閉塞性肺障害における深呼吸時の気道径の評価 2. 動態X線解析を用いた拘束性肺障害、閉塞性肺障害における深呼吸時の肺野濃度の評価 3. 腎動脈周囲神経叢へのボツリヌス毒素を用いた高血圧治療方法の開発

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。
主任指導を希望する場合は、十分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和 5 年 1 2 月 1 日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
放射線医学講座 (放射線科、放射線部)	—	講師	河野直明	1. 限局性前立腺癌の放射線治療に関する臨床研究 2. 転移性脳腫瘍に対する多標的定位置射線照射の安全性と有効性に関する後ろ向き研究
放射線医学講座 (放射線科、放射線部)	—	講師	北原均	1. 人工知能を用いた肺の超高精細CTの画質向上に関する研究 2. 骨軟部画像診断の精度向上に関する取り組み 3. 小児画像診断の精度向上に関する取り組み 4. 神経画像診断の精度向上に関する取り組み
歯科口腔外科学講座 (歯科口腔外科)	—	講師	家森正志	1. 口腔癌治療に関する研究 2. 顎変形症および口蓋裂治療に関する研究 3. 骨吸収抑制剤関連顎骨壊死に関する研究 4. 睡眠時無呼吸症候群に関する研究 5. 歯周病に関する研究 6. インプラント治療に関する研究
		講師	越沼伸也	1. 露出骨面創部治癒に関するメカニズムの解明および新規組織再生修復材料の開発 2. 網羅的口腔内細菌叢の解析 3. 顎顔面形態と睡眠時無呼吸症候群と各種疾患との関連性の解明
臨床検査医学講座 (検査部)	—	准教授	茶野徳宏	1. 遺伝子診断の臨床適用 2. 新規分子RBICCIの生物学的機能の解析 3. がん特異的バイオマーカーを用いた診断と治療の開発 4. RAB39Aを標的とする分子創薬
病理部	—	准教授	森谷鈴子	1. 病理診断学 2. 乳腺・婦人科病理
救急集中治療医学講座 (救急集中治療部、総合診療部)	—	教授	塩見直人	1. 重症頭部外傷の集学的治療に関する研究 2. 脳死・脳蘇生に関する臨床的研究 3. 病院前救急診療体制の構築 4. 救急領域におけるエンドオブライフ・ケアの取り組み
		准教授	辻田靖之	1. 過大侵襲時の心機能障害と不整脈に関する研究 2. 敗血症の臓器障害に関する研究 3. 心臓・血管原性ショックの疫学研究
		講師	藤野和典	1. 侵襲時における多臓器不全発症の機序の解明
臨床腫瘍学講座 (腫瘍センター)	—	教授	醍醐弥太郎	1. 新規がん関連遺伝子の同定と機能解析による発がん機構の解明 2. ゲノミクス、プロテオミクス解析による体系的がん進展機構の解明 3. がんの新規分子標的治療薬（低分子・抗体・核酸医薬）の開発 がんペプチドワクチンおよび免疫制御薬の開発とトランスレーショナルリサーチ 4. がんの個別化医療に向けたバイオマーカーと分子病態診断システムの開発とトランスレーショナルリサーチ 5. ヒト臨床試料のバンク構築と利活用による研究支援活動
		講師	村田聡	1. 消化器癌手術後の転移機序の解析と治療法の開発 2. 消化器癌周術期における癌微小環境の制御 3. 固形がんに対する免疫細胞治療法の開発
総合内科学講座	—	教授	杉本俊郎	1. 内科診断学 2. 地域医療 3. 水・電解質異常の基礎と臨床 4. ICTを用いた医学教育方法の開発
		准教授	大西正人	1. 慢性心不全の病態生理と治療 2. プライマリケアにおける高血圧の診断と治療 3. シミュレーション医学教育
		准教授	伊藤明彦	1. 内視鏡的胃瘻造設術の手法と管理 2. 経腸栄養の適応と合併症 3. NST（栄養サポートチーム）活動と多職種連携
		准教授	前野恭宏	1. 糖尿病の地域医療連携効率化に関する研究 2. 糖尿病患者教育と予防教育の効率的な方法に関する研究
		講師	和田広	1. 呼吸器内科診療における地域連携効率化に関する研究 2. 閉塞性肺疾患の臨床

★印の教員は令和 7 年 3 月に、■印の教員は令和 8 年 3 月に定年を迎えます。
主任指導を希望する場合は、充分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
総合外科学講座	—	教授	目片 英 治	1. 大腸癌の集学的治療 2. 樹脂製手術器具の開発 3. 抗癌剤感受性試験 4. 腫瘍学（病態・治療・地域連携）
総合外科学講座	—	准教授	山 口 剛	1. 肥満外科・糖尿病外科治療における安全性と有効性の研究 2. 食道・胃疾患の外科治療の研究 3. 消化性潰瘍の治療における安全性と有効性の研究
		講師	赤 堀 浩 也	1. 消化器外科侵襲学に関する研修 2. マイクロ波手術デバイスの開発 3. 膵切除術に関する臨床研究
		講師	北 村 直 美	1. 新しいエンドトキシン測定法の開発 2. 腹腔鏡下胆のう摘出術に対する術後鎮痛
形成外科学講座	—	特任准教授	荒 田 順	1. 経皮的骨切り法を用いた骨延長術の有用性に関する研究 2. 遊離組織移植のモニタリングに関する研究 3. 切断指再接着に対する血管吻合数と生着率に関する研究
		講師	岡 野 純 子	1. 広範囲組織欠損創に対して組織再生を可能にするスキャフォールドの開発 2. 多剤耐性菌に対する抗生剤に代わる次世代新規治療の開発
光学医療診療部	—	講師	木 村 英 憲	1. 消化管腫瘍に対する低侵襲治療の開発 2. 消化管腫瘍発見率向上のための観察法に関する研究 3. 腸内微生物叢に着目した消化管腫瘍発生における病態解析
血液浄化部	—	講師	金 崎 雅 美	1. 血液浄化療法学 2. 糖尿病性腎症の発症および進展機構の解明
輸血・細胞治療部	—	講師	南 口 仁 志	1. 造血幹細胞の特性解明 2. 白血球幹細胞の特性解明
栄養治療部	—	講師	竹 林 克 士	1. 食道癌術後栄養管理に関する研究 2. 胃癌・食道癌術後の転移再発機序に関する研究 3. 食道癌の集学的治療
医療情報部	—	准教授	■杉 本 喜 久	1. 医用電子工学 2. 医療情報システム 3. 循環器系の生体工学
薬剤部	—	教授	森 田 真 也	1. 脂質トランスポーターおよび脂質代謝に関する研究 2. 脂質分析法の開発 3. 個別化薬物療法に関する研究
		准教授	池 田 義 人	1. 脂質トランスポーターに関する研究 2. 金属トランスポーターに関する研究
医療安全管理部	—	教授	清 水 智 治	1. 外科侵襲学に関する研究 2. 新しいエンドトキシン測定法の開発 3. 大腸癌・炎症性腸疾患の治療に関する研究
		講師	萬 代 良 一	1. 院内救急対応システム
リハビリテーション部	—	准教授	児 玉 成 人	1. 悪性骨・軟部腫瘍の病態と治療に関する研究 2. 整形外科再建手術におけるマイクロサージャリーによるアプローチ 3. 突発性前・後骨間神経の病態と治療に関する研究
臨床研究開発センター	—	講師	倉 田 真由美	1. 生体臓器移植に対する認識調査—インターネット調査による一般市民の自由記述回答の分析 2. インターネットを活用した研究参加希望者支援システムの構築 3. 改正臓器移植法における親族優先提供をめぐる議論の批判的検討
医師臨床教育センター	—	教授	川 崎 拓	1. 人工関節手術に関する研究 2. リウマチ性疾患の疫学調査 3. 運動器リハビリテーションに関する研究
		特任講師	山 原 真 子	1. 糖尿病性腎臓病におけるポドサイトの障害機構の解明 2. 慢性腎臓病における腎機能障害機構の解明
神経難病研究センター	基礎— 分子神経病理学	教授	(予定教員)	

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。

主任指導を希望する場合は、充分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
神経難病研究センター	橋渡しー 神経診断治療学	教授	石垣 診 祐	1. 神経変性疾患・認知症の病態解明 2. 核酸医薬を用いた神経変性疾患・認知症の根本治療法開発 3. 摂食機能・高次脳機能指標、画像指標を用いた神経変性疾患・認知症のバイオマーカー開発
	橋渡しー 神経診断治療学	准教授	柳 沢 大治郎	1. アルツハイマー病の発症機序の解明と治療標的の探索 2. 認知症の超早期診断法の開発 3. 神経変性疾患の病態解明と診断・治療法の開発
	基礎ー MR医学研究	(予定教員)		
動物生命科学研 究センター	ー	教授	依 馬 正 次	1. 霊長類ES/iPS細胞に関する研究 2. 遺伝子組換えサル作製技術の開発とヒト疾患モデリング研究 3. 霊長類の初期発生・胎盤発生の研究 4. 血管新生の分子機構
		准教授	守 村 敏 史	1. 新規発光プローブによる抗小胞体ストレス薬の開発及び応用研究 2. TDP-43結合mRNAの翻訳産物に焦点を当てた孤発性筋萎縮性側索硬化症の細胞病態の解明 3. 病原関連変異APP遺伝子組換えアルツハイマー病モデルザルを用いた早期診断・治療法の開発
創発的研究センター	挑戦的研究	特任准教授	橋 本 翔 子	1. アルツハイマー病モデルマウスを用いた病態形成メカニズムの解明 2. 酸化ストレスが脳の恒常性維持に及ぼす影響の解析
	国際共同研究	特任教授	WAN ZURINAH WAN NGAH	1. アルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患のメカニズムの解明とパーム油由来トコトリエノールなどの抗酸化物質による治療法に関する研究 2. トコトリエノール投与による腸内細菌叢と腸内メタボリズムの改善と認知機能との相関についての動物モデルを用いた研究 3. アルツハイマー病遺伝子導入神経芽細胞に対するトコトリエノールのアイソフォームの効果検証 4. トコトリエノール投与したアルツハイマー病モデルマウスの海馬におけるトランスクリプトーム、プロテオーム、メタボロームの総合的解析 (マレーシア国民大学との共同研究)
	先端医療研究開発	特任准教授	山 田 篤 史	1. 医療機器のための屈曲機構の研究開発 2. 軟性医療機器の研究開発 3. 軟性ロボット機構 4. 画像誘導手術
実験実習支援センター	ー	准教授	朝比奈 欣 治	1. 肝臓の線維化における肝星細胞の活性化機構の解明 2. 腹腔内における臓器表面中皮と腹腔マクロファージの相互作用 3. 膵臓がんにおけるマクロファージの役割
保健管理センター	ー	准教授	小 川 恵美子	1. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の病態解明 2. COPDコホート集団データを用いた臨床研究
情報総合センター	ー	教授	芦 原 貴 司	1. コンピュータシミュレーションによる不整脈治療の開発 2. 難治性心房細動アブレーション医療機器と新術式の開発 3. 生体医工学・in silico・人工知能等による循環器病態解明 4. ヒトiPS心筋細胞シートの循環器病治療・創薬への応用
		准教授	本 山 一 隆	1. 恒星の形成過程の研究 2. 星間ガスの進化の研究 3. ハイパフォーマンス コンピューティング
医学・看護学教育 センター	ー	教授	伊 藤 俊 之	1. 医学教育学
		教授	向 所 賢 一	1. 動物モデルを用いた胃・食道発癌に関する研究 2. 胆汁酸の発癌及び癌の進展に関する影響 3. 新しい3次元培養システムを用いた癌研究
NCD疫学研究センター	予防医学	教授	三 浦 克 之	1. 循環器疾患・生活習慣病の疫学 2. 循環器疾患・生活習慣病の予防医学 3. 栄養疫学
		准教授	門 田 文	1. 糖尿病・代謝性疾患・生活習慣病の疫学・予防医学 2. 循環器疾患・潜在性動脈硬化症の疫学研究 3. メタボロミクスによる認知症の解明

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。

主任指導を希望する場合は、充分な事前相談が必要です。

別表 2

(令和5年12月1日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
NCD疫学研究センター	最先端疫学	教授	(予定教員)	
	医療統計学	准教授	原 田 亜紀子	1. 疫学研究における統計解析手法の開発 2. 健康・保健医療サービス研究のための統計解析手法の開発 3. 身体活動、加齢に関する疫学研究
地域医療教育研究拠点	—	准教授	梅 田 朋 子	1. 乳癌の浸潤転移と線溶系および接着因子 2. 乳癌浸潤範囲のMRIマッピング 3. 乳癌術前化学療法法の細胞性免疫に対する効果
		准教授	川 合 寛 道	1. 糖尿病神経障害の発症機構とTNF 2. ミトコンドリア脳筋症の病態解明 3. ALSの遺伝子治療
I R 室	—	准教授	森 野 勝太郎	1. 代謝疾患と栄養の研究 2. ミトコンドリアバイオジェネシス

★印の教員は令和7年3月に、■印の教員は令和8年3月に定年を迎えます。

主任指導を希望する場合は、十分な事前相談が必要です。

検定料振込用紙等

- ※1 下切り取り以下の用紙により、令和6年1月22日（月）から2月9日（金）の期間に振り込んでください。
- 2 右の台紙に「振込金受領証明書」を貼り付けたものを関係書類と共に送付してください。

検定料納付確認書

この枠内に振り込み後の「振込金受領証明書」を貼り付けてください。

C

振込金受領証明書 (大学提出用)

金額
¥30,000-
受取人
滋賀医科大学
(フリガナ)
志願者氏名

取扱銀行収納印

1

A

振込金(兼手数料)受領書 (本人保存)

依頼日	年 月 日
金額	¥30,000-
先方銀行	滋賀銀行・瀬田駅前支店
	関西みらい銀行・草津南支店
	三菱UFJ銀行・草津支店
受取人	滋賀医科大学
志願者氏名(フリガナ)	
消費税込 手数料	円

上記の金額正に受取りました。

取扱銀行収納印

2

印紙

B

電信扱

振込依頼書 (取扱店保存)

手数料ご依頼人負担

科目	
----	--

〇右記取りまとも銀行のうち一つを選び印を付し必ず電信送金してください。	依頼日	年 月 日	振込指定	電信扱	消費税込 手数料	円	
	先方銀行	預金種目	口座番号	金額	¥30,000-		
	滋賀銀行・瀬田駅前支店	普通	0146970	現金			
	関西みらい銀行・草津南支店	普通	0514443	当手枚			
	三菱UFJ銀行・草津支店	普通	1102147	他手枚			
受取人	シカ・イカタ・イカ・ク			10,000	0	100	00
	滋賀医科大学			5,000	0	50	0
ご依頼人	志願者氏名(フリガナ)：もれのないよう打電してください。			2,000	0	10	0
	氏名(漢字)			1,000	0	合計	
	住所 〒			500	00	つり銭	
	TEL						

取扱銀行収納印

3

◎取扱銀行へのお願い

- ①太線内を必ず打電してください。
- ②金額の訂正はできません。
- ③収納印は1・2・3にもれなく正確に押印し、A・C票は必ず依頼人にお返しください。
- ④滋賀銀行以外の銀行・信用金庫から振り込まれる場合は手数料が必要です。
- ⑤本振込依頼書は、令和6年2月10日以降は取り扱わないでください。



入学者選抜等に関する照会先

滋賀医科大学 入試課入学試験係

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL 077-548-2071

E-mail hqnyushi@belle.shiga-med.ac.jp

<https://www.shiga-med.ac.jp/>